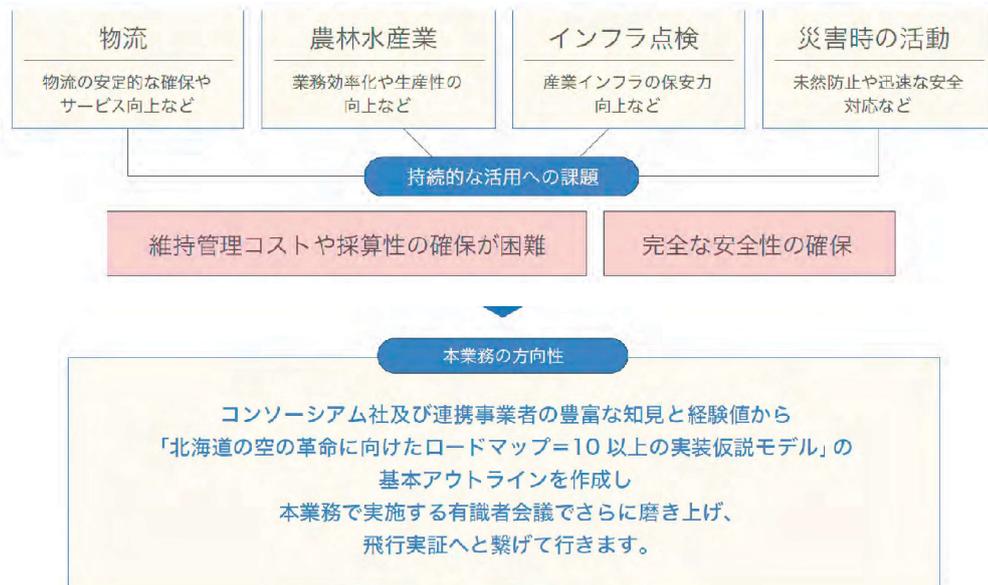


| | | | |
|------------------|---|------|--|
| 発表項目 (行事名) | ドローンのマルチユースに関する有識者会議(第2回)の開催について | | |
| 記者レクチャー のお知らせ | (実施日時) | 発表者 | |
| | | 発表場所 | |
| 概要 | <p>道では、ドローンの幅広い利活用を促進するため、1台のドローンを多分野・多目的で活用する「ドローンのマルチユース」について、その可能性や課題を検証する実証を行うこととしました。</p> <p>実証を行うにあたって、専門的な知見を踏まえて検証を深めるための有識者会議を設置しており、1月15日に第1回を開催し、意見を聴取しています。その意見を踏まえて実証を行いましたので、今回その結果の報告とガイドラインとして取りまとめる上での意見を聴取するため、次のとおり第2回の有識者会議を開催します。</p> <p>1. 日 時：令和6年3月15日(金) 14:30～16:30</p> <p>2. 場 所：札幌駅前ビジネススペース カンファレンスルーム 2A (札幌市中央区北5条西6丁目1-23 第二北海道通信ビル2階)</p> <p>3. 内 容：実証結果の報告 ガイドライン作成にあたっての方向性の説明 意見交換、質疑応答</p> <p>4. 参加者(有識者)： (1) 北海道大学 大学院工学研究院 教授 川村洋平 (2) 寒地土木研究所 雪氷チーム 主任研究員 原田裕介 (3) 株式会社北日本スカイテック 専務取締役 白川努 (4) 株式会社KOO 代表取締役 中村友</p> | | |
| 参 考 | <ul style="list-style-type: none"> 例えば農薬散布ドローンは夏場の一時期のみ活用されており、その他の期間は使われていません。本実証事業は、こうした活用されていない期間に他の用途での活用可能性を示すことで費用対効果を高め、ドローンの利活用拡大を図るものです。 本実証の結果はガイドラインとして取りまとめ、4月にHPで公表します。 | | |
| 報道(取材)に当たってのお願い | <ul style="list-style-type: none"> 取材をご希望される場合、報道機関名と氏名を3月14日(木)までに、下記連絡先までご連絡をお願いします。 | | |
| 他のクラブとの関係 | 同時配付 | (場所) | |
| | 同時レク | | |
| 担 当 (連絡先) | 総合政策部次世代社会戦略局DX推進課(担当者：山田) TEL：011-204-5172(内線23-216)、公用携帯：011-585-6101(内線34487) | | |

ドローンのマルチユース実証事業

趣旨説明

ドローンを単一の用途で使うのではなく、平時にインフラ点検で使っているドローンを災害時に被災状況の確認等に活用するといった複数の用途にまたがる「ドローンのマルチユース」を社会的に実装していくことで、幅広い分野での更なる活用促進が期待されます。



ドローンマルチユース設計案

広大な土地、自然環境、積雪寒冷をテーマとした北海道らしいドローンの活用

| | | | |
|---------|---|------|--------------------------------|
| 1.林業 | × | 排雪 | レーザースキャナ搭載ドローンのマルチユース |
| 2.農業 | × | 融雪 | 粒剤散布装置を搭載した農業用ドローンのマルチユース |
| 3.塗装 | × | 除雪 | 遠隔スプレー缶装置搭載ドローンのマルチユース |
| 4.物流 | × | フレンチ | 短距離物流ドローンのマルチユース |
| 5.農薬散布 | × | 外壁洗浄 | 農薬散布ドローンのマルチユース |
| 6.橋梁点検 | × | 法面計測 | 非GNSS環境下での自動飛行システムのマルチユース |
| 7.密猟監視 | × | 漁業 | ズームカメラ搭載ドローンのマルチユース |
| 8.ヒグマ対策 | × | 遭難救助 | 熱赤外線ドローンとスピーカーを搭載したドローンのマルチユース |
| 9.防犯 | × | 観光 | サーチライト搭載ドローンのマルチユース |
| 10.精密農業 | × | 不法投棄 | 近赤外線カメラ搭載ドローンのマルチユース |
| 11.測量 | × | 風力点検 | 測量用RTK搭載ドローンのマルチユース |
| 12.空撮 | × | 災害対策 | 空撮用ドローンのマルチユース |